

## 教員のための金融教育セミナー 実践報告（県立佐渡高等学校）

県立正徳館高等学校 教諭 小林 真也



## 研究主題

- 将来の佐渡市を担う人材育成のため、生徒の職業観を育むとともに、主体的に判断・考察し、表現する力を養う。

## 教科（地歴公民科）の取り組み

- 新聞記事を教材として活用し、現在の日本の景気状況やそれに応じた金融政策などについて考察・判断することを通じて、現代社会に対応する思考力や表現力を養う。

## 平成27年度

- 新聞記事に記載されている日銀短観を活用した。2015年3月・6月・9月の3四半期分の日銀短観のグラフ及び記事から日本の景気状況の変動を読み取らせることで、今後望ましいと考えられる金融政策・財政政策についてグループに分かれて考察・判断させるという授業を2時間行った。
- 1時間目は、日銀短観の説明を行ったうえで、3四半期における景気変動を生徒各自で考察させた後にグループ内での発表を行い、意見集約を図った。
- 2時間目は、今後望ましいと考えられる金融政策・財政政策について考察させた後にグループ内での意見を集約させ、授業の最後にグループごとで発表を行った。

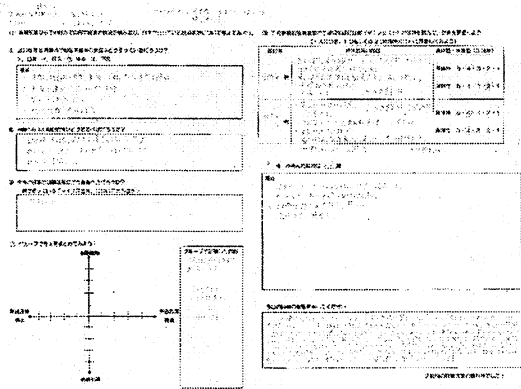
## 平成28年度（研究授業）

- 1時間目は「2016年6月の日銀短観」や「5月時点の消費者物価指数」、「2016年の新車販売台数の見通し」、「海外の中央銀行が金融緩和政策を実施」などが掲載された新聞記事を使用して、その時点における景気状況をア～エの4つの選択肢から選択させ、財政政策および金融政策をどのように実施していくかを個人で考察させた。その後、グループで討論を行い、金融政策と財政政策をどの程度行うべきかを決定し、それぞれのグループから討論の結果を発表させた。
- 2時間目は、2016年7月の参議院議員選挙の、各政党の政権公約（マニフェスト）が経済された新聞記事を使用し、公約のうち経済政策に関連する分野から、前時において各グループで集約した経済政策に最も近い政党を選択させた。グループ内でそれぞれの生徒が1つないし2つの政党の公約を検討し、その政策の具体性と実現性を5段階で評価した後に、グループ内で最も望ましい経済政策を提示している政党を選択し、全体発表を行った。

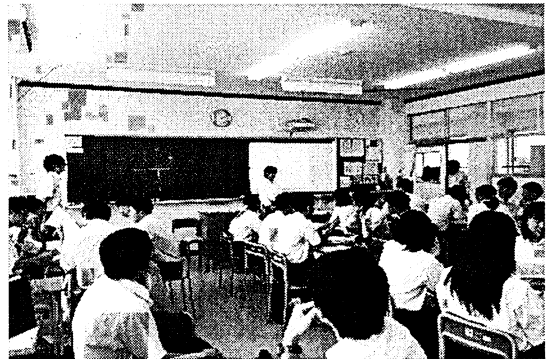
## 研究授業の感想

- 実際に新聞を見て、現在の景気の良し悪しが分かりました。政党についてもそれぞれの公約を読み、投票することが大事だということが分かりました。次の投票が楽しみになりました。
- 初めてこんなにしっかりと各党の考え方や公約を見ました。まだ17歳ですが、近い将来参加することになる選挙というものを身近に感じました。どの党、どの人を選ぶかを吟味する練習になったのでとてもためになりました。経済的な影響についてもしっかりと視野に入れながら考えられる人になりたいです。また、プリントにあった「実現性」が伴っているかどうかはとても大切な視点であったと思いました。
- 勉強したことを実際に活かすことの難しさを学びました。復習する際の定着率も、実践後の方が高かったため、時間があるときにはなるべく新聞を読むようにしようと思います。
- 新聞記事からの状況の読み取りが難しかったです。テレビや新聞をもっと見るようにしたいです。各政党の公約は読んで興味を持ってました。早く選挙に行ってみたいです。
- いつもは先生の話を聞いての授業ですが、今回は自分たちで話し合いをやるものでした。そうなることと分からないことが出てきて、説明できず、ただ意味も分からずその語句を使うということもありました。もっと勉強が必要だと感じさせられました。また、普段では政治について興味を持って見ることがありません。2時間目は各党の政策なども知ることができてとても良い機会になりました。

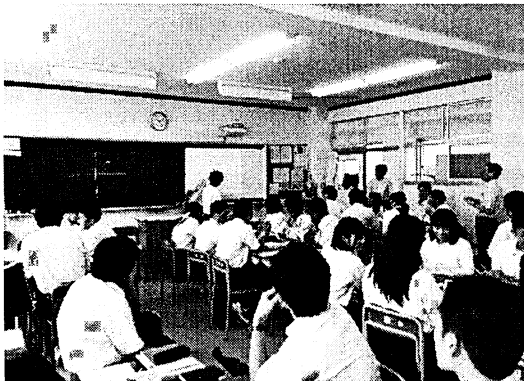
## 生徒のレジュメ



## 研究授業の様子



## 研究授業の様子



## 総合的な学習の時間での取り組み

- 生徒の職業感を養うことで、将来の佐渡市を担う人材であるという自覚を持たせ、具体的な進路目標の設定を図る。
- これまで本校では、総合的な学習の時間で「職業講話」や「大学出張講義」を行い、生徒の進路意識を高める取り組みを行っていた。
- しかし、従来の「職業講話」は内容が薄く、進路意識を高める狙いとしては効果が低いものであった。
- そこで、従来の「職業講話」を発展・拡充させることで、キャリア教育の要素を取り入れることを目指した。

## 平成27年度の取り組み

- 平成28年度に「職業講話」を発展・拡充させるための準備期間
- 校内の「総学委員会」において提案
- 学校単独での取り組みでは限界があるため、佐渡市教育委員会との連携を図る方針で一致し、平成27年度の2月から本格的に準備が開始となった。

## 平成28年度の取り組み① — 職業講話の目標 —

- キャリア教育の充実にあたり、生徒が職業への意識を喚起し、主体的に進路選択ができる土台をつくる。
- 「学問に向かう自分を知る」…進学先を卒業した先にある「社会」についての理解を深め、「社会」に主体的に関わる存在として、生徒自身が高校時代に何をすべきか考えさせる。
- 「地域に生きる自分を知る」…佐渡で働く先輩の話や姿から生徒が佐渡に生きる自分を知り、郷土(佐渡)を愛する心を育む。

## 平成28年度の取り組み② —佐渡市教育委員会との連携—

①業種・講師をお願いする。

業種：観光、環境、食品製造、多角経営、精密機器、農業、  
情報、福祉、建築、建設、教員、医療、司法、漁業、運輸、  
警察官、消防、保健、学校経営、地域おこし協力隊、金融、  
農協、飲食業、土木、研究職、美容

②講師に対する事前準備と生徒への事前指導の連携

5月11・12日に教員・教育委員会・講師での事前打ち合わせ

5月～7月までの、生徒の事前指導(計4回)

## 平成28年度の取り組み③ —佐渡市教育委員会との連携—

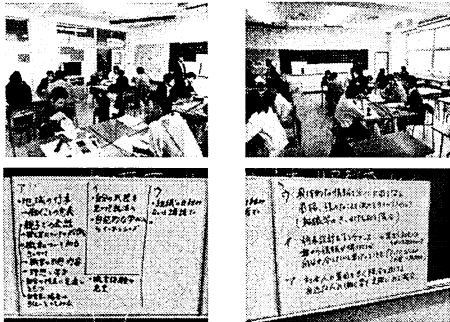
③職業人講師との事前打ち合わせ会

- ・ビジョンの共有…育てたい佐渡の子ども達の姿
- ・生徒の勤労観、職業観の育成
- ・生徒の進学後の「社会」への理解
- ・働く人の思い・力の活用をどのように生徒に伝えるか

④情報交換…ロールプレイング

- ・実際に模擬講話を行って、質疑応答や講話についての意見・感想を述べあう。

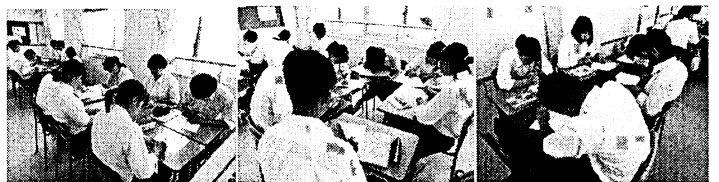
## 平成28年度の取り組み④ —事前打ち合わせ—



## 平成28年度の取り組み —事前指導—

・計4回の事前指導を行った

→職業適性検査や講師の方への質問作成など



## 平成28年度の取り組み —職業講話当日—



## 平成28年度の取り組み —生徒の感想—

- ・自分の行動に意志を持つこと、人のつながりを大切にしていけることを今から意識すると良いことを教えてくれた。
- ・勉強は無駄にならないし、失敗も良い経験になる。今を大切に、何に対しても一生懸命取り組む事が未来への可能性につながる事が分かった。
- ・今のうちに夢や目標を決めておくことが、やっぱり大切なんだなと思った。でも、大学に入ってからや、社会人になってからでも、違った分野の勉強ができると分かって少し安心した。今から幅広い分野の勉強をしていると将来絶対に役に立つという事も言っていたので、今からコツコツと頑張りたいなと思った。

## 平成28年度の取り組み —講師の方の感想—

- 私も普段の仕事や仕事に対する思いを改めて考える良いきっかけになりました。このような活動がどんどん広まっていったら素敵だなと思います。
- 佐渡には仕事がない、良い職場がないという声も聞かれますが、これまで佐渡にどんな会社があり、どんな仕事をしているかを知ってもらえる機会もそれほどなかったように思います。今回の職業講話は、佐渡の企業をアピールできた場であり、大変有意義な時間であったと思います。
- 興味ある生徒は事前にHP等で会社の情報を入手した上で、分からなかった内容について質問する生徒がいました。自主的に調べることで佐渡島内の会社についての知識や興味が深まるはずで、こういった取り組みの一環を高校生活の中に取り入れることも今後、佐渡人口の衰退、就業人口減を切り抜ける一つの手法なのかなと思います。

## 2年間で振り返って

- 総合的な学習の時間を見直す良い機会となった。
- 教科指導では、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）や主権者教育などに取り組む機会として公開授業を行うことができた。
- 予算を使い切ることができなかった（もったいなかった！）
- 綿密な計画を立てた上で実施できるとさらに良いものとなった。